

令和 3年 1月

植嶋千尋 学位論文審査要旨

主 査 磯 本 一
副主査 梅 北 善 久
同 藤 原 義 之

主論文

Prognostic significance of TYR03 receptor tyrosine kinase expression in gastric cancer

(胃癌におけるTYR03受容体チロシンキナーゼ発現の予後予測上の重要性)

(著者：植嶋千尋、森本昌樹、山本学、原和志、宮内亘、菅澤健、多田陽一郎、
谷尾彬充、木原恭一、松永知之、徳安成郎、坂本照尚、本城総一郎、梅北善久、
藤原義之)

令和2年 Anticancer Research 40巻 5593頁～5600頁

参考論文

1. Combination of C-reactive protein and monocyte count is a useful prognostic indicator for patients with colorectal cancer

(CRPと単球数の組み合わせによる大腸癌患者予後因子の有用性について)

(著者：山本学、齊藤博昭、原和志、菅澤健、植嶋千尋、谷尾彬充、多田陽一郎、
木原恭一、坂本照尚、本城総一郎、藤原義之)

令和2年 in vivo 34巻 299頁～305頁

審査結果の要旨

本研究は受容体チロシンキナーゼであるTYR03の胃癌における発現をヒト胃癌細胞株および患者検体で確認し、その機能について検討したものである。siRNAを用いたTYR03の抑制実験により胃癌細胞株で細胞増殖能、細胞浸潤能が低下することを示した。さらに、Stage II/III胃癌の切除検体において、胃癌組織中のTYR03の発現が予後不良と関連していることを示した。以前に当科で行った膀胱癌の研究で、TAMの下流メディエーターがepithelial-mesenchymal transition (EMT) 調整経路に共通していることが示されており、TYR03はEMTを含むいくつかのカスケードを介して胃癌の進行を促進していることが示唆される。本論文の内容は、胃癌の浸潤増殖におけるTYR03の機能と治療標的としての可能性を示唆するものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。